



遊びの場面（動画）を見て、感じたこと、考えたことをグループで話し合いました。

### 事例① 心が動けば体も動く ～全身を思い切り動かして楽しむ～



保育者とタイミングを合わせて、巧技台の斜面板を一緒にすべって遊ぶ。また、台上によじ登る、ジャンプして降りる、斜面板を上り下りするなど、やりたいことを自分のペースで楽しんでいる。

保育者も一緒に遊んでいて、大人も子どもも楽しそう♪自園では手が足りなくて、見守り保育になることも多い。

斜面板を立ったまま上ったり下ったりしたら、自分は「危ない!」「ダメ!」と言ってしまうと思う。

巧技台の設定が何カ所もあり、発達に合わせて遊べている。



ホール（広い環境）があっていいな～!!コーナー分けができてうらやましい!

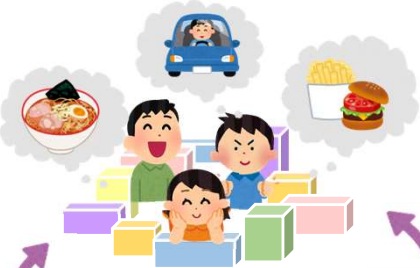
**ポイント**

子どもは、今の自分よりも少し背伸びをしてできることに挑戦しようとする。自分の能力とやりたいことに合わせて豊かな遊びを経験できるように、それぞれの発達状況にあった遊び方ができる環境づくりをする。

子どもと先生と一緒に楽しんでいる姿がいいですね。保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを体験することが大切です。



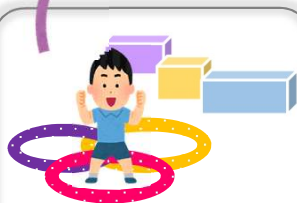
### 事例② イメージの世界を広げてごっこ遊びを楽しむ



自分たちでウレタン積木を運び、遊びの場をつくる。場を共有しているが、一人一人がイメージしているものは異なる。「ラーメン屋さん行ってくるね!」という声が聞こえると、「えっ?!ラーメン屋さん?」と友達の言葉に反応する姿もある。

それぞれがもつイメージは違うけれど、一緒にいることが楽しい♪

自分の場所、自分のイメージをもち、自分たちで遊びの環境をつくっている。



後から加わろうとした子の入るスペースがなく、自分でフープを持って来て、ウレタン積木の傍に自分の遊びの場をつくる。

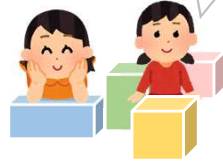
あっちから買って来て!  
(ポテト=ウレタン積木)

ポテト食べているんだって

買ってきたよ



保育者の言葉で、友達がイメージしていることがわかる。



新たに運んで来たウレタン積木を介して、子ども同士のやりとりが始まる。

しゃべることが上達し、自分が「やっていること」「もっているイメージ」「思っていること」などを言葉で伝えている。



子どものイメージを崩さないように保育者が丁寧に見取りかかわっている。

**ポイント**

イメージのズレで、友達同士のかかわりがうまくいかないことがある。一人一人のイメージや表現を大切にしながら、保育者が言葉で説明したり、思いを代弁したり、イメージのズレをすり合わせつないでいく。

一人一人のイメージを自由に表現しながら遊んでいます。無理にイメージをまとめたり、共有を急がないこと。大人が上手に橋渡しすることで、遊びが発展していきます。





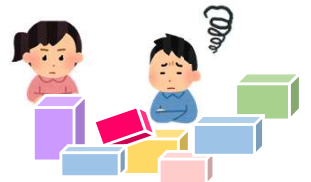
Aが「赤いの!」と言いながら、高く挙げた手を握ったり開いたりして、救急車になりきっている。



Aの遊びを見ていたBが、ウレタン積木を動かす。Aは言葉にならない声で威嚇し、続けて「ダメ!」と言う。Bは思わずAをたたいてしまう。



保育者が、泣いているAの頭をなでながら「痛かったね」と声をかける。Bにも「これが欲しかったんだね」と言う。少ししてからAに「Bちゃん、貸して欲しかったんだって」とBの気持ちを代弁する。



保育者の関わりをじっと見ていたBは、積木をAの近くに置く。Aは頭をかかえながら考え、Bに積木を貸してあげた。保育者に「ありがとう、優しいね」と言われ嬉しくなったAは、少し離れた場所まで跳ねるように走って行き、ひとまわりして戻って来た。

ウレタン積木を積んだ上に立って遊んでいる。自分だったら危ないと思い、遊びを止めてしまうが、動画の保育者は「ダメ」「やらないよ」と言わずに見守っている。

子どもがうまく表現できない部分を、大人が仲立ちしている。

Aは、ウレタン積木を他の子に取られても何も言わなかったけれど、Bには怒りを出していた。二人の関係性が見えてくる。



たたいてしまったBに保育者が「ダメ」「たたかないよ」と言いがちだが、動画の保育者は言わなかった。Aに「痛かったね」と寄り添う保育者のかかわりを見て、Bはいろいろなことを考えていると感じた。Bの真剣な表情から、心の中で葛藤しているのだと思った。

ポイント

「まねっこ」は、同じことがしたい、一緒にいたいという友達への関心のあらわれ。楽しさや面白さに共感することもあれば、自己主張のぶつかり合いが生じることもある。信頼できる保育者に気持ちを受け止めて（代弁して）もらうことで葛藤を切り抜け、気持ちを立て直すことや、相手を受け入れ折り合いをつける力が育つ。

いろいろな気持ちや感情を経験することで、心が育ちます。それぞれの思いをつなぐ仲立ちをすることで、相手にも思いがあることに気づいていきます。



2歳児の保育で大切にしたいこと

イメージの世界が広がるように…

- ★見立て遊びができる素材や道具を用意する
- ★友達とイメージを共有して、言葉でやりとりする楽しさを味わえるようにサポートする

「友達と一緒に楽しい」経験を重ねられるように…

- ★子ども同士のつながりを支える
- ★ルールをまだ完全に理解できないのでまずは「みんなて!」を楽しめるようにする

安心できる大人との関係の中で自分の思いを出せるように…

★「〇〇して」に込められた意味を理解する

- ①「〇〇して欲しい」という行為の要求
- ②「気持ちをわかって欲しい、尊重して欲しい」という自我の要求



受け入れられないと激しく泣いたり、駄々こねをするのは「自分が尊重されなかった」と感じるから

★ありのままの姿を受け止め、子どもが「自分の思いが伝わった」と感じられるようにする

まずは受け止めてから、保育者の思いを伝えることで第二の自我へとつながる

研修生の報告書より

保育者の声が小さいこと、子どもたちの声がそれほど荒くないことに気づいた。自分の思いを伝えようとしているのに、大声で言い合う姿がなかった。保育者も穏やかに話し、日々、そういった言葉でやりとりをし、お互いを認め合っているのだと感じた。

事例からの学びを踏まえて、叩いたことを怒ったり、取った玩具を取り上げたりするのではなく、それぞれに寄り添った言葉がけをした。葛藤する時間を大切にすることで、子ども自身がいろいろなことを考え、自分で気持ちを切り替えて行動することができた。